My Study だより

令和８年１１月号
品川区立品川学園
校長　小宮山　琢磨

学校行事に向けた予定の変更や行事への緊張を感じながら、どのお子さんも精一杯学習に向き合う姿が見られます。そのような中で特別支援教室を楽しみにしてくれるお子さんは多く、子どもたちの様子を見ながら学習環境や課題の量を調整しています。ご家庭も、少しだけ手を止めて話を聞いたり、いつもよりスキンシップを多めにとってくださったりすることがお子さんの心の充電につながります。

今回は、10月号の SST（ソーシャル・スキル・トレーニング）の続きで、エピソードを紹介します。

SST で大切にしていること ～実際の指導から～

✎小集団指導が成果を上げる

SSTは、小集団が主流です。ゲームやスポーツ、製作など実際の場面で子ども同士の関わりを通して指導します。必要な場面、仲間関係の中で指導する方が、動機付けがしやすくなるからです。また、大人からの評価以上に仲間からの評価は効果があります。



❀ エピソード １ ❀

複数学年で構成したグループでのことです。失敗が苦手で活動に参加できず、いつもイライラしている3年生のAさん。教員が手立てを打っても難しいまま半年経ったある日、私たちは5年生のBさんに相談しました。そうしたところ、ぽつりと**『とりあえず、やってみたら？』**と呟いたのです。さりげない一言にAさんは少し意外そうに「そうなの？」と返答、活動に前向きになれました。Bさんは、何故そう言ったのでしょう？「数年前の自分だと思った、自分がやってみてできたことがあるから。」と、後で話してくれました。

❀ エピソード ２ ❀

高学年5人グループでのことです。「こんなとき、どうする？」「お悩み相談室」などの名称で、それぞれ自分の考えを出し合い、いろいろな考え方を知ることをねらいとした活動があります。人の考えを否定せずに聞くことも学習です。学校生活や活動の中で、「こうでなければならない」という完璧主義、一つの考え方への固執、「こうなるはず」という思考の幅の狭さから結果を受け入れられないお子さんがいるからです。

ある日、「あなたにとって、テストの合格点は何点ですか？」という質問をしました。
そうしたところ、100 点から 30 点まで幅広く、一人も同じ答えがなかったのです。
低めに答えたお子さんのご家庭は、時間をかけて結果に折り合いを付けられるよう声をかけてきたご家庭でした。私たちもいろいろな活動の中で支援してきました。
自分になかった考えを知り、**「100点じゃなくていいの？」**とびっくりすると同時にほっとしたCさんの表情は今でも忘れられません。



✎個別指導との両輪の効果

他者への関心を抱きにくかったり他者の気持ちを想像しにくかったりするお子さんには、小集団で誰かと関わる機会は良い時間です。私たち教員も複数で対応します。個別指導であらかじめ練習し安心して活動に参加できるお子さん、活動後に丁寧に振り返って次に生かしていくお子さんとそれぞれですが、個別指導と両輪で指導していくことがより学習の定着につながることがあります。

特別支援教室マイスタディ　担当教員一同
専門員